

事業実施の
目的

これまで、園小それぞれでアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを作成していたが、カリキュラムの作成に留まり、園と学校の共通理解のもと相互に関連付けた活用・実践には至っていなかった。そこで、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを一体的に捉えた「かけがわ型架け橋カリキュラム」の検討・開発・改善・発展を図ることと、幼児教育施設の保育者と学校の教員が、互いの教育について相互理解することを促進し、それぞれの良さを取り入れた教育内容や方法の工夫及び改善・充実を図ることを目的とする。

1. 主な取組内容について**【架け橋期のカリキュラム開発会議】**

開発会議のメンバーを大学教授、県教育委員会義務教育課幼児教育推進室教育主任を含む計17人とし、計6回開催した。「かけがわ型架け橋カリキュラム」における共通項目について協議した。園小の教育内容や指導方法の相互理解を進めるために、具体的な活動を通して話し合いを進め、園での経験が小学校の学びにつながる「ジョイント活動」を園小の接続のポイントとして、2例作成した。

【架け橋期のカリキュラム】

開発協議において「かけがわ型架け橋カリキュラム」の在り方について、全体またはグループに分かれて協議を重ね、「かけがわ型架け橋カリキュラムVer.1」を完成させた。この中に、「ジョイント活動」を位置付けた。

【園・小学校における体制】

市内の全幼児教育施設及び小学校等の保育者、教員を対象とした研修「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修」を2回開催し、実践事例発表や保育者と教員合同のグループワーク等を行った。

【自治体における体制】

公私立を問わず市内乳幼児教育施設が加盟する「かけがわ乳幼児教育未来学会」とこども希望課、学校教育課が本事業に関わることで、連携の強化を図ることができた。

2. 主な成果について

園での経験と小学校での授業内容とのつながりについて、具体的にイメージしながら話し合うことで、幼児教育と学校教育の教育内容や指導方法について相互理解が進んだ。また、令和3年度に作成した「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」の活用や、「育ちと学びをつなぐ（通信）」の発行により、市内全保育者と学校の教員へ本市の取組が周知できた。小学校では、1年生の子供の「園でもやったことがあるよ。」等の声を拾い、園の生活や経験を生かす声掛けや支援をする意識が高まった。

事業内容
・成果
(R4年度)事業実施
地域・
協力園校
(R4年
度)**【実施地域】**

掛川市

【協力園校】

幼：私立こども園2園 小：公立小学校2校

今後の目標
(R5年度)

令和4年度に作成した「かけがわ型架け橋カリキュラムVer.1」を、研究指定園・校にて検証、検討を行う。また、令和4年度に作成した「かけがわ型架け橋カリキュラム～幼児教育を学校教育へつなぐ～（冊子）」等を活用・追記、研修の充実等を行い、幼小接続の推進を図る。

